

みんなで守る文化財

福岡市文化財防災マニュアル

【概要版】

Ver.1

マニュアル【本編】はコチラ

<https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>



1. はじめに

近年多発する自然災害。

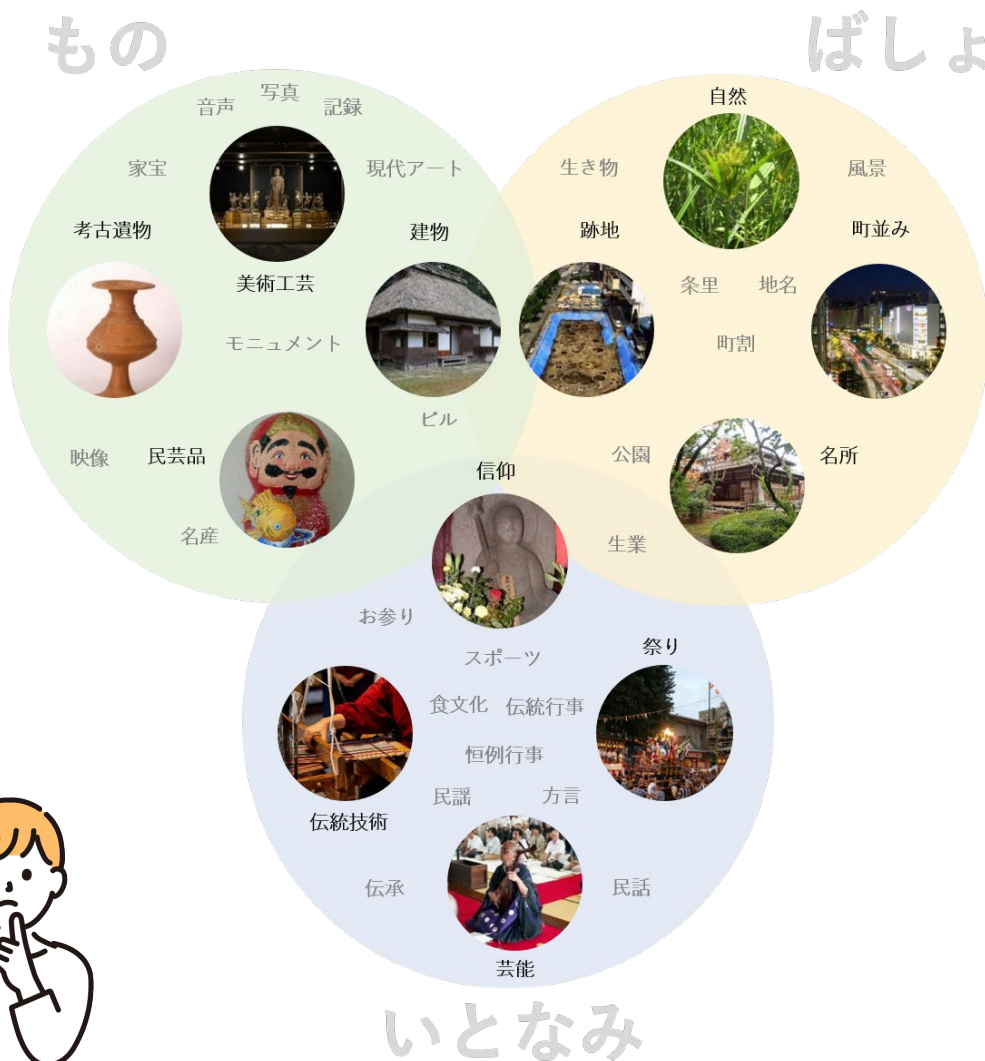
みなさんが大切に守り伝えてきた文化財をこうした災害から守るためにはどうしたらよいのでしょうか？

このマニュアルでは、それぞれの災害に対して予防できること、また被災してしまった場合にどのように対処したらよいのか、すぐに実行できる内容をまとめました。

みなさんがお持ちの文化財をこれからも長く守り伝えていくために、「みんなで守る文化財 福岡市文化財防災マニュアル」【本編】とあわせて、この【概要版】を活用していただければ幸いです。

2. 文化財とは？

福岡市では、市民が過去から受け継ぎ、次世代に伝えたいと思う「もの」・「ばしょ」・「いとなみ」を広く文化財と捉え、福岡市の歴史や文化を理解するうえで大切なものとして位置付けていきます。



3. 文化財を取り巻くリスク

これまでも、福岡市内では自然災害等により文化財がき損する事例が発生しています。これらのリスクを軽減するため、チェック項目（6・7ページ）を活用して、防災・防犯につとめましょう。

火災	失火・放火により文化財建造物が焼失 失火・放火により建物内に保管されていた文化財が焼失 落雷による出火で文化財が焼失 消火活動による水損などの二次被害
風害	老朽化していた文化財建造物が風害によりき損 風による飛来物、倒木等で文化財がき損
水害	排水溝や雨樋のつまりにより、雨水が文化財建造物内へ流入 雨漏り、漏水、浸水、汚水の逆流により、文化財がき損・汚損 土砂崩れにより、文化財がき損・流出
地震	家具等の転倒、蛍光灯やガラスの破損により、文化財がき損 文化財が保管棚等から落下し、き損
虫菌害等	湿気により文化財にカビが発生 周辺のほこり、ゴミ、木材内で文化財害虫が生育し、文化財をき損
盗難等	未施錠による文化財の盗難被害 管理者不在時や周辺に人気がない場所で文化財が盗難、き損・汚損被害

4. 事前にできる！防災・防犯対策

○災害発生リスクの確認

区ごとに配布している防災マップやWEB版「**福岡市総合ハザードマップ**」等を活用し、自身が所有・管理する文化財が被災する可能性の高い災害について確認しましょう。



福岡市総合ハザードマップ

○日常点検・定期的な見回り

日常的に点検・見回りを実施することで、普段とは違う状況や盗難被害等をいち早く発見することにつながります。6～7ページの**チェック項目**や、5ページ下の**チェックリスト**や**マニュアル**を活用して、普段から外観だけでなく、細かな部分も点検・見回りを行うことを心がけましょう。

日常点検管理記録票（【本編】にフォーマット有）を作成・効率的に活用し、壊れてから直すのではなく、計画的な予防措置をとることが修理費の抑制につながります。

○清掃・整理整頓

建物の場合、雨樋や排水溝の清掃を行うことで、浸水や雨漏りによる被害を防ぐことができるほか、虫やカビの発生を防ぎます。

ただし、文化財そのものを過度に清掃すると、顔料等の剥落や、文化財の損傷につながるおそれがあります。周辺環境を清掃して、文化財にほこりが積もったり汚れが付着したりしないようにしましょう。

また、文化財周辺の整理整頓は、盗難・放火のリスクや、地震の際の落下物によるき損のリスクを軽減します。

○保管環境の整備・温湿度管理

文化財の素材によって、適切な保管環境は異なりますが、どの素材においても、**温湿度の急激な変化が一番の大敵**です。

右記の最適な温湿度を参照に、**直射日光を避けた場所で保管**し、できる限り文化財に負荷がかからない環境を目指しましょう。

種類	温度	湿度
絵画	22°C±1°C	50～55%
彫刻	22°C±1°C	50～55%
陶磁器	22°C±1°C	50～55%
漆製品	22°C±1°C	50～55%
染織品	22°C±1°C	50～55%
石・土・ガラス	22°C±1°C	50～55%
金属製品	22°C±1°C	50%以下
和紙	22°C±1°C	50～55%
洋紙（近代）	22°C±1°C	50～55%
フィルム	5～10°C	40～50%

○文化財の記録作成

文化財が被災した場合に修理・復元できるよう、また盗難にあった際に照合できるよう、文化財の状態変化の履歴、特徴及び寸法・素材等の記録を作成しましょう。

まつりや伝統行事等の場合は、催しや準備の様子を写真や動画等で記録しておくことで、継承や復興に活用できます。

記録の方法がわからない場合や、こういった方法がよいのか迷う場合は、福岡市文化財活用課にご相談ください。写真や動画のデータは、コピーやバックアップを取って、元データとは別々に保管しておくことでデータ消失のリスクを軽減することができます。

○所有者情報の提供・共有

災害時に文化財の被災状況を把握するための連絡手段となりますので、指定・登録等文化財に関しては、相続等で**所有者が変更になった場合や、所有者の氏名・住所等が変更になった場合は、必ず届出を提出してください。**

また、災害時の対応について、所有者・市文化財活用課等の関係者の間で平時より情報共有を図ることも重要です。

○防災訓練の実施

建物等の文化財や文化財を保管している施設の場合、危機管理マニュアルや避難誘導計画（管理者・見学者・文化財）を作成して関係者と共有し、実際に災害が起こったことを想定して、防災訓練を実施することも効果的です。

緊急時の連絡先を把握し、いざという時にスムーズな対応ができるようにしましょう。また、地域の方々と日常的に協力体制を整えておくことも大切です。

○参考となるウェブページ

日常的な点検は、6～7ページのチェック項目や下記チェックリストに従って実施し対策を講じましょう。

仏像・掛軸・絵馬・油絵・フィルムの日常管理については、下記「文化遺産日常管理マニュアル」や「家庭でもできるフィルム保存の手引き」をご覧ください。



防火・防犯対策
チェックリスト（文化庁）



文化遺産日常管理マニュアル
（東北芸術工科大学
文化財保存修復研究センター）



家庭でもできる
フィルム保存の手引き
（映画保存協会）

5. チェックしてみよう！



火災を防ぐために

消火器等の消火設備を準備・設置していますか？

※指定を受けた文化財には消防設備の設置義務があります（補助金についてはご相談ください）。

文化財周辺に燃えやすいものを置いていませんか？

火気を使用する施設の場合は、火気利用点検表を作成し、使用のたびに点検を実施しましょう。

電気配線や器具にほこりが溜まっていませんか？

風害を防ぐために

屋根瓦や壁材など、ゆるんで飛ばされやすくなっている部分はありませんか？

周辺にある倒木のおそれがある樹木は、対策をとっていますか？

強風が予想される場合は、ガラスが割れて飛散しないよう、テープなどで養生しましょう。

屋外にある文化財は、飛ばされないように補強しましょう。

屋外には風で飛ばされやすいものを置かないようにしましょう。

水害を防ぐために

建物周辺の排水溝や雨樋は、つまっていませんか？

雨漏りが発生していませんか？

浸水が想定される区域の場合、ブルーシートや土嚢、水嚢を準備しておきましょう。

浸水が想定される場所は、文化財を避難できる場所（建物の2階など）を事前に確認しておきましょう。

地震被害を防ぐために

文化財は、落下の危険性がない場所に保管されていますか？

展示していない文化財は木箱や、緩衝材を詰めた箱など、衝撃を和らげる保管をしていますか？

背の高い文化財や屋外で保管されている文化財は、転倒の防止策を講じていますか？

昭和56年以前に建築された建物は耐震診断を実施しましょう。建物自体が文化財の場合は、市文化財活用課へご相談ください。

虫菌害・鳥獣害を防ぐために

- 保管環境の温湿度（4 ページ参照）は適切ですか？
- ゴミやよごれ、ほこりを放置していませんか？
- 建物の雨漏りや水漏れを修理し、風通しを良くしましょう。
- 建物近くに虫の小さな羽が落ちていたり、柱や壁に小さな穴が開いている場合は、害虫駆除の専門家に相談しましょう。
- 文化財に害をなす鳥獣が巣を作っていませんか？

盗難・き損等被害を防ぐために

- 文化財は、鍵のかかる場所に保管されていますか？
- 文化財の点検、見回りを定期的に行っていますか？
- 文化財の保管・展示場所に常時人がいない場合、監視カメラ等の防犯設備（防犯を意識したポスターやステッカー含む）を設置していますか？
- 万一盗難があった場合に情報提供を呼び掛けられるよう、文化財の写真や大きさの情報などの記録を用意していますか？

6. 被災後の対応方法

- ・ **人命を最優先**に行動してください。
- ・ **安全が確認された後**、文化財の被害状況を確認しましょう。
- ・ 被災状況の記録写真を撮影し、**被災前の記録と照合**してどの部分が損傷したか確認してください。
- ・ **指定・登録等を受けている文化財**は、取扱いについて専門家の助言が必要になるため、市文化財活用課へご相談ください。
- ・ 指定・登録等を受けていない文化財でも、復元・修復をする場合には、専門の事業者の紹介等について、市文化財活用課へ相談することができます。
- ・ 損傷した部分の破片も、復元・修復の際の参考になる場合があるため、**捨てずに保管**しておいてください。
- ・ 再び同様の被害に遭わないよう、**原因を把握し、対策を講じて**ください。



7. 文化財が被害を受けたら・・・

